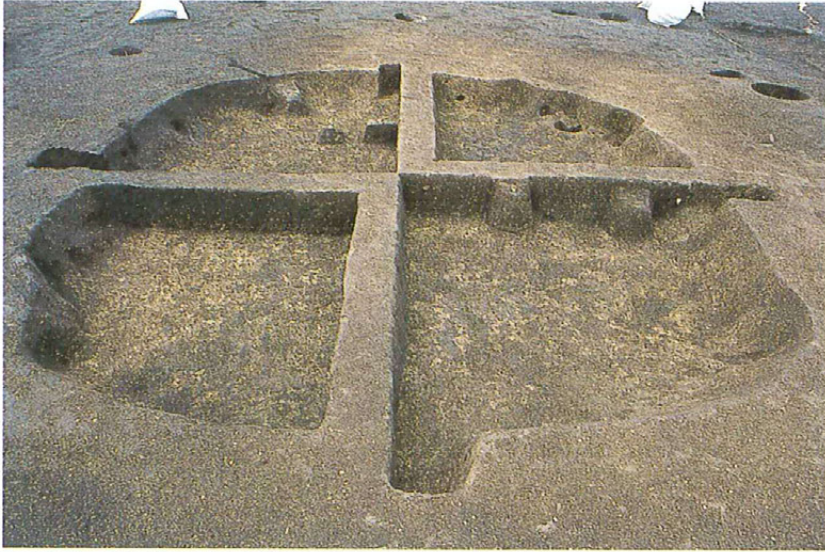
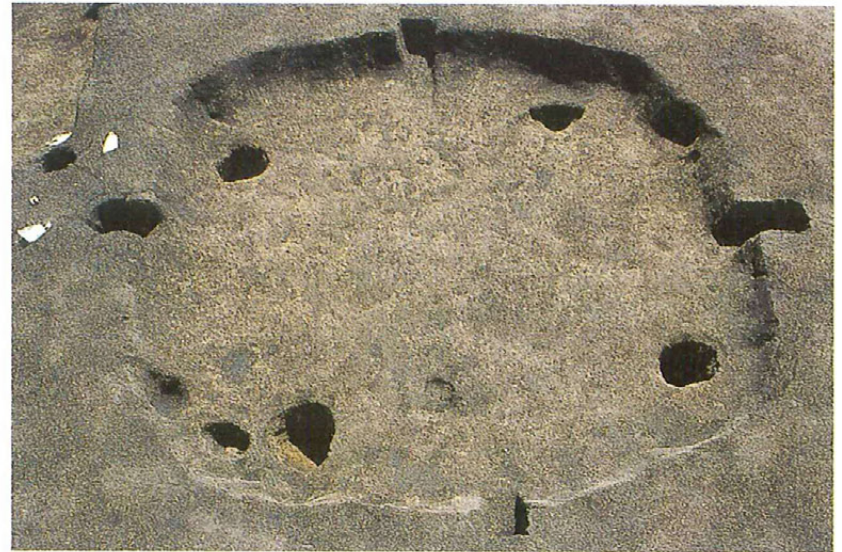


写真4 平安時代遺構・遺物出土状況



竪穴状遺構 (SA4) 断面と遺物出土状況



竪穴状遺構 (SA4) 完掘状況



竪穴状遺構 (SA5) 完掘状況



竪穴状遺構 (SA6) 断面と遺物出土状況



竪穴状遺構 (SA6) 遺物出土状況



竪穴状遺構 (SA6) 完掘状況



竪穴状遺構 (SA7) 断面と遺物出土状況



竪穴状遺構 (SA7) 断面

写真5 平安時代遺構・遺物出土状況



豎穴状遺構 (SA7) 断面



豎穴状遺構 (SA7) 完掘状況



豎穴状遺構 (SA7) 土師器出土状況



豎穴状遺構 (SA7) 土師器出土状況



豎穴状遺構 (SA8) 断面



豎穴状遺構 (SA8) 断面



豎穴状遺構 (SA8) 灰状物質検出状況



豎穴状遺構 (SA8) 完掘状況

写真6 平安時代遺構・遺物出土状況



豎穴状遺構 (SA 8) 青磁出土状況



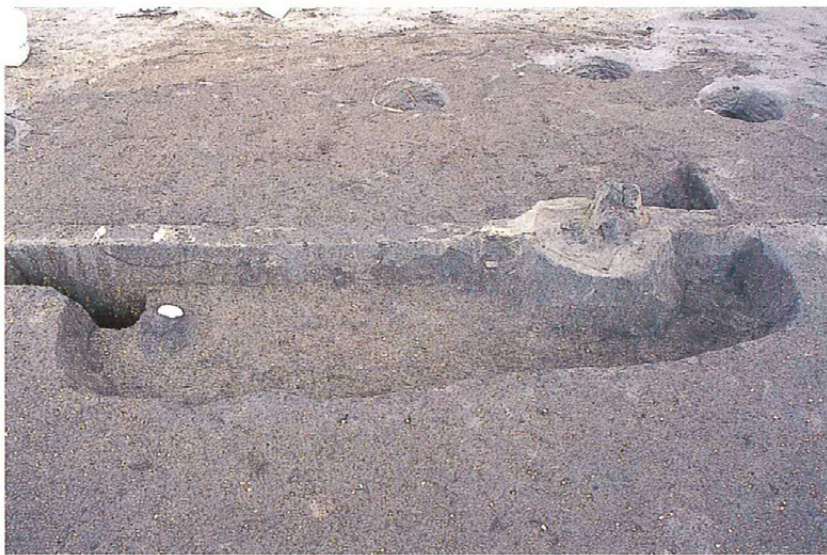
豎穴状遺構 (SA 8) 土師器出土状況



豎穴状遺構 (SA 8) 土師器出土状況



豎穴状遺構 (SA 8) 土師器出土状況



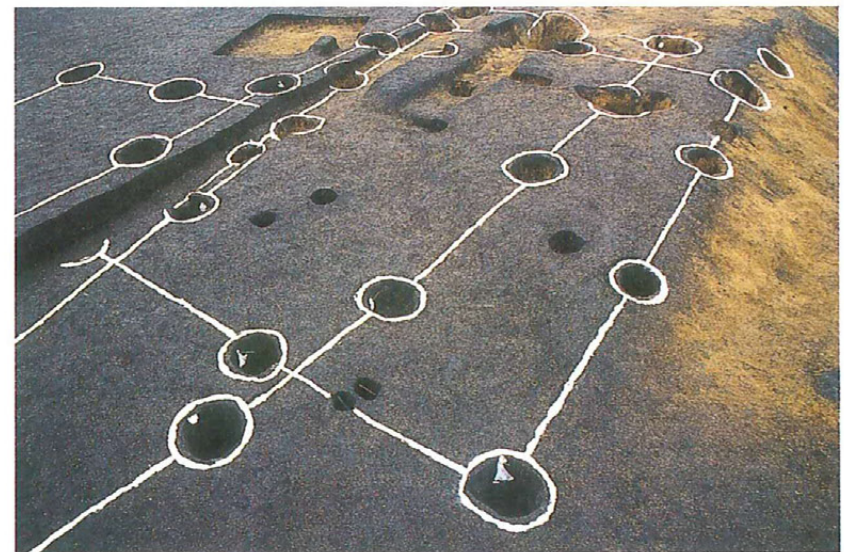
土坑 (SC285) 断面



土坑 (SC285) 炭化米出土状況



土坑 (SC285) 完掘状況



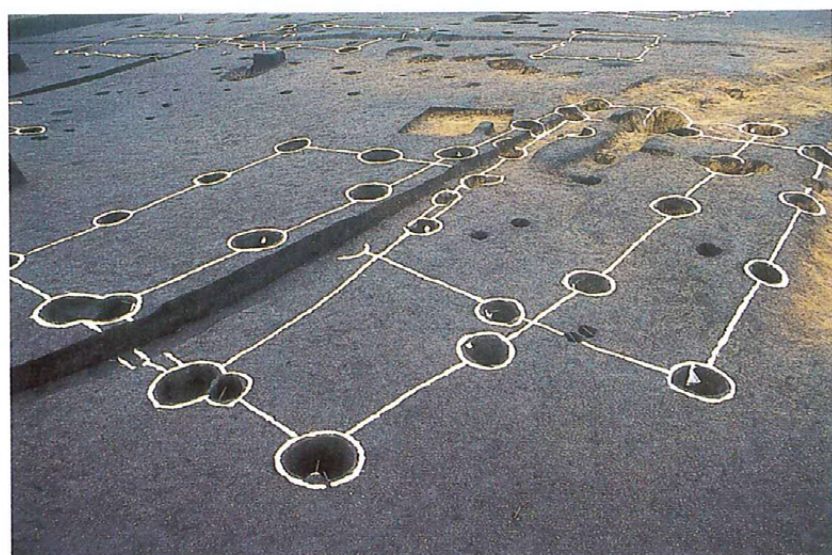
掘立柱建物 (SB97)



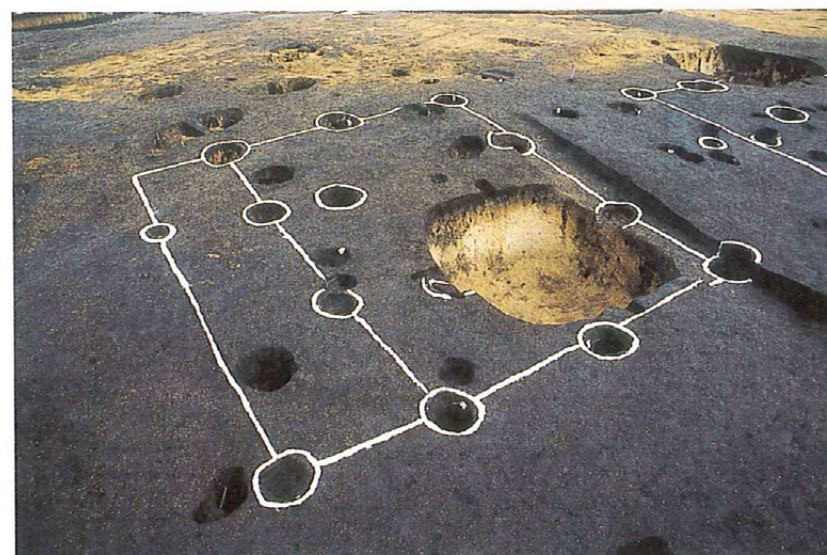
掘立柱建物跡 (SB103)



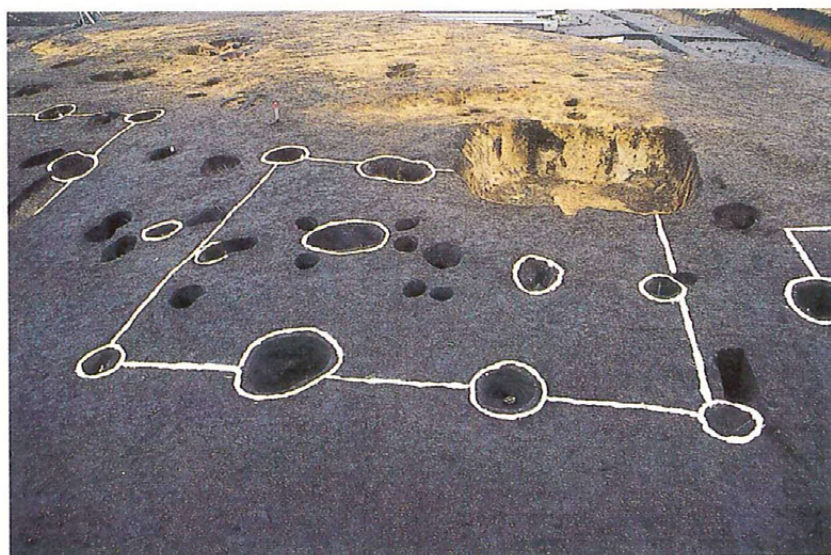
掘立柱建物跡 (SB103) 柱痕跡断面



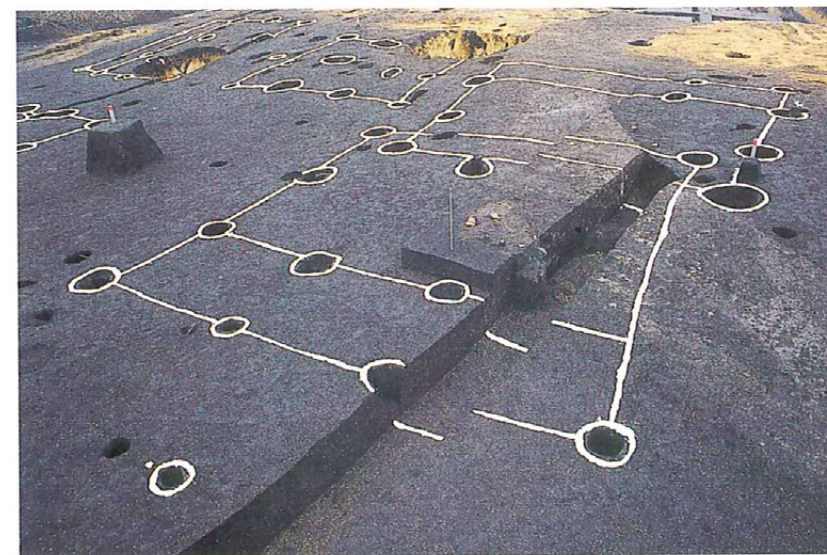
掘立柱建物跡 (SB97・98・104)



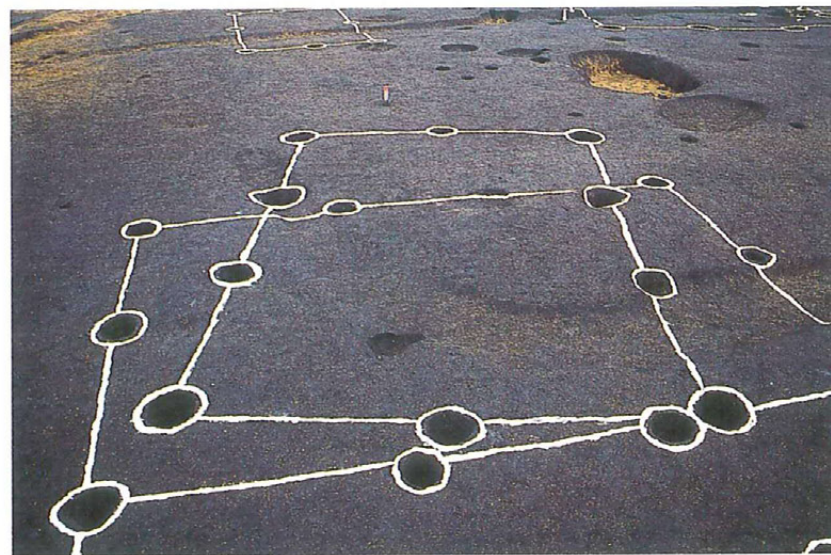
掘立柱建物跡 (SB105)



掘立柱建物跡 (SB106)



掘立柱建物跡 (SB107・108)



掘立柱建物跡 (SB100・109)



掘立柱建物跡 (SB99・105・110)

写真8 平安時代遺構・遺物出土状況



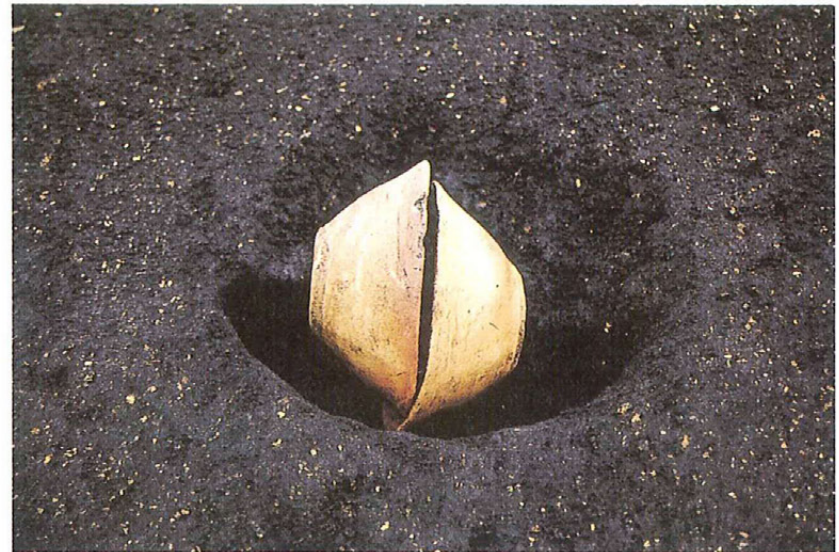
掘立柱建物跡 (SB110) 柱痕跡断面



焼土坑 (SN 1) 断面



土師器集積遺構 (SQ 1)



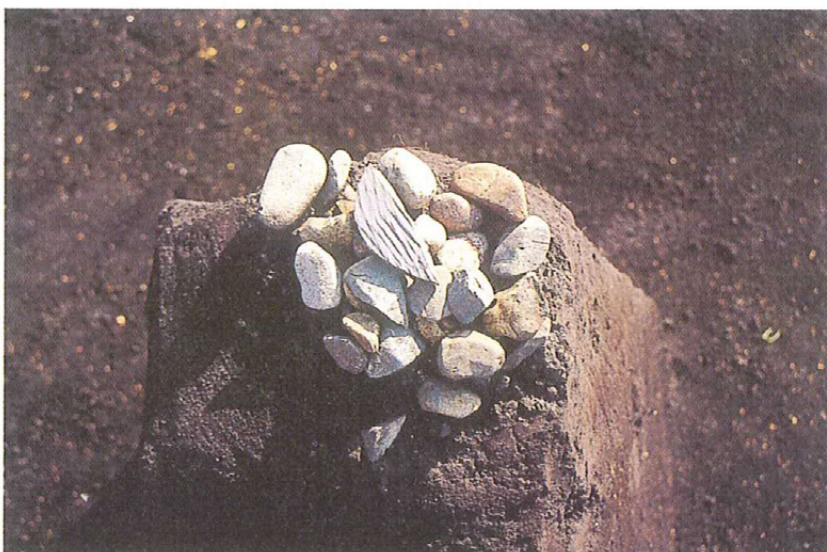
土師器埋納遺構 (SR 1)



土師器埋納遺構 (SR 2)



I-17区 集石遺構 (SS 1)



H-17区 集石遺構 (SS 2)



H-15区 集石遺構 (SS 3・4) 右側がSS 3、左側がSS 4

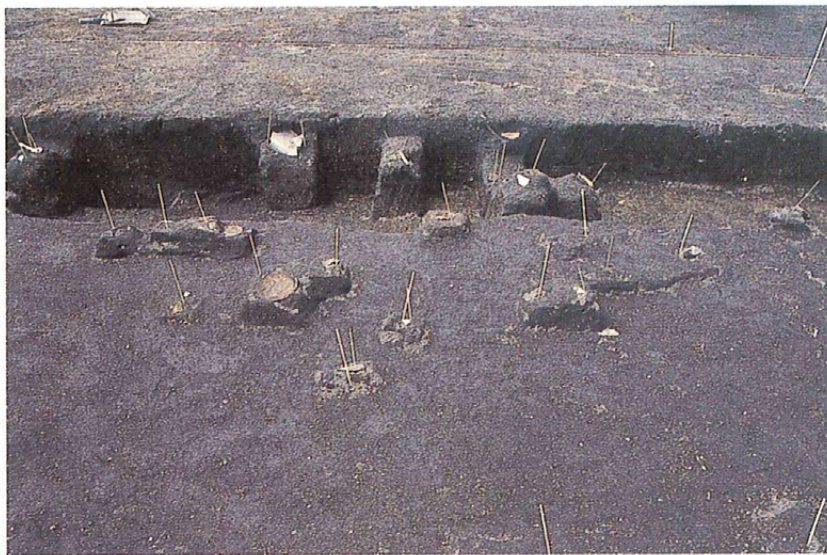
写真9 中世遺構・遺物出土状況



第1次調査南側 小溝状遺構群



N・M-7区 中世遺物出土状況



M-7区 中世遺物出土状況



中世土師器出土状況



褐釉合子出土状況



白磁水注出土状況



滑石製品出土状況



溝状遺構 (SD 1) 調査風景

写真10 中世遺構・遺物出土状況



溝状遺構 (SD 1)



溝状遺構 (SD 1) 断面 H-15区 最下部に砂層



溝状遺構 (SD 1) 断面 I-7区



溝状遺構 (SD 1) 断面 I・J-12区



溝状遺構 (SD1) 硬化面検出状況 K-14区 軽石製石塔出土状況



溝状遺構 (SD 1) 下層土師器出土状況



溝状遺構 (SD 1・2) 屈曲部



溝状遺構 (SD 1・2)

写真11 中世遺構・遺物出土状況



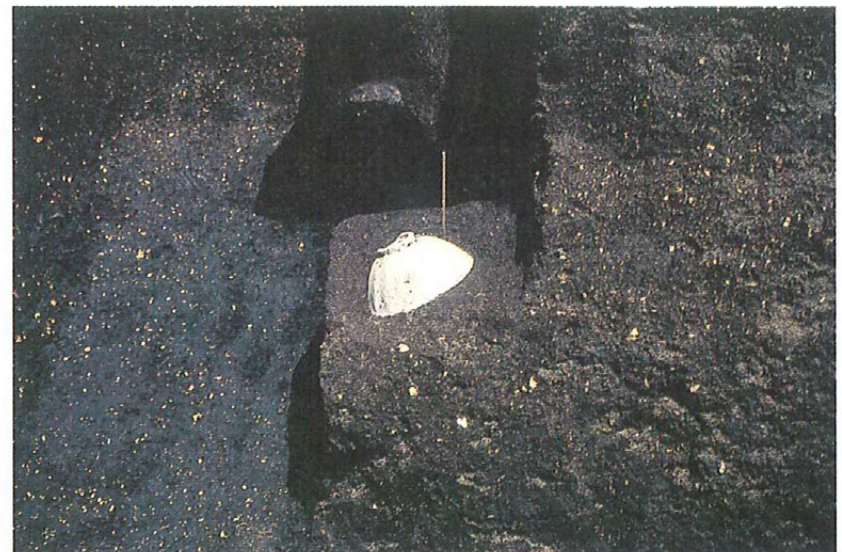
溝状遺構 (SD 2) 上層遺物出土状況 J-7区



溝状遺構 (SD 2) 上層遺物出土状況 J-6区



溝状遺構 (SD 2) 下層土師器出土状況 I-6区



溝状遺構 (SD 2) 青磁出土状況



溝状遺構 (SD 2) 断面 I-5区



溝状遺構 (SD 14) 西側の黄色軽石粒散乱状況



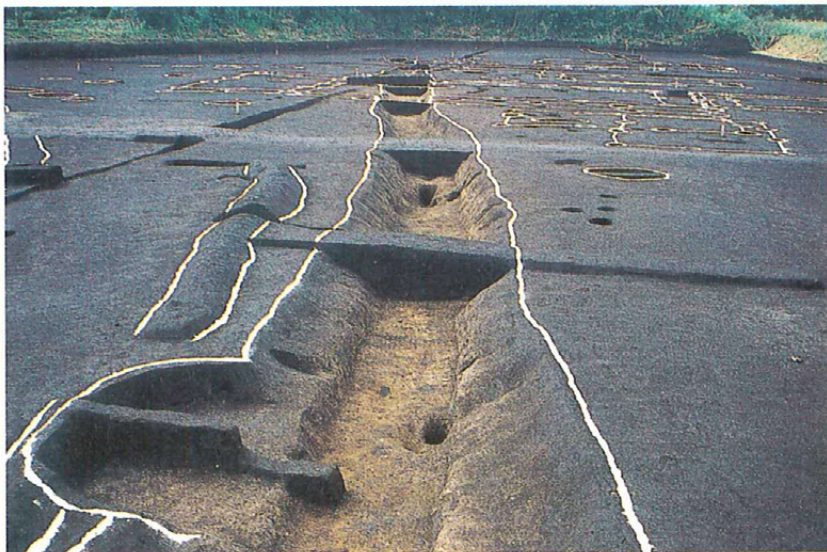
溝状遺構 (SD 14)



溝状遺構 (SD 14) 断面



写真12 中世遺構・遺物出土状況



溝状遺構 (SD15)



溝状遺構 (SD15) 断面 テフラサンプリング地点



溝状遺構 (SD15) 青磁出土状況



溝状遺構 (SD21)



溝状遺構 (SD26)



竪穴状遺構 (SA1)



竪穴状遺構 (SA10)



Q・R-9・10・11区 掘立柱建物跡群



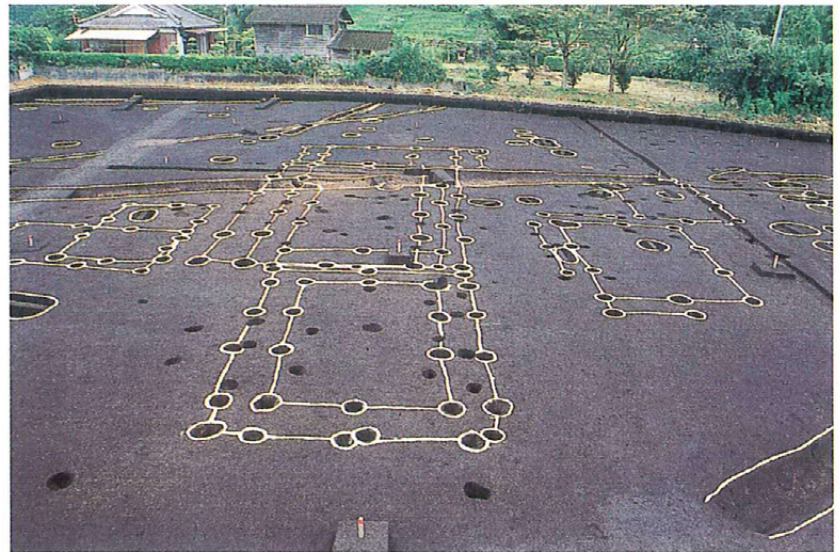
M・N-6区 掘立柱建物跡群



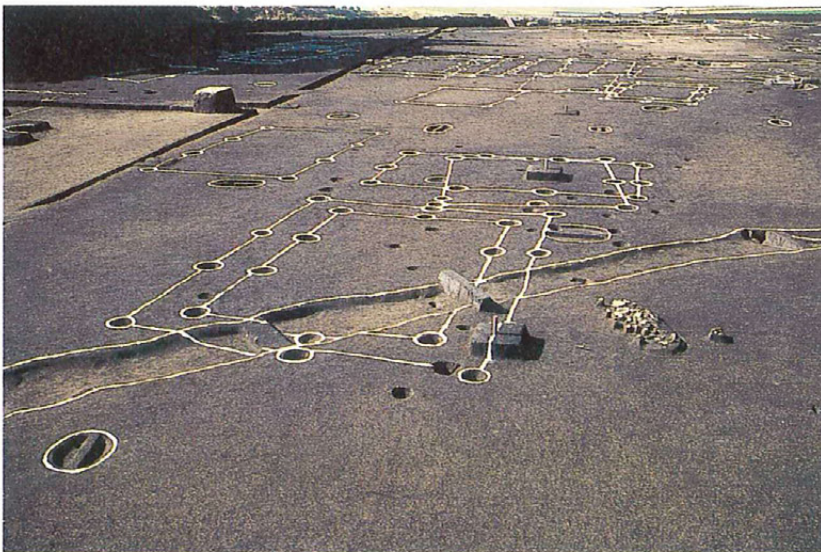
O-6区 掘立柱建物跡群



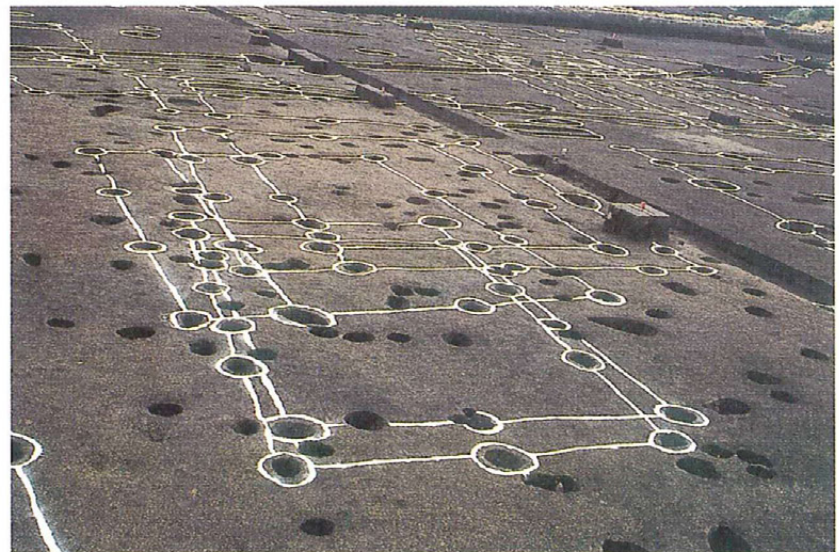
S・T-6・7区 掘立柱建物跡群



Q・R-12・13・14区 掘立柱建物跡群



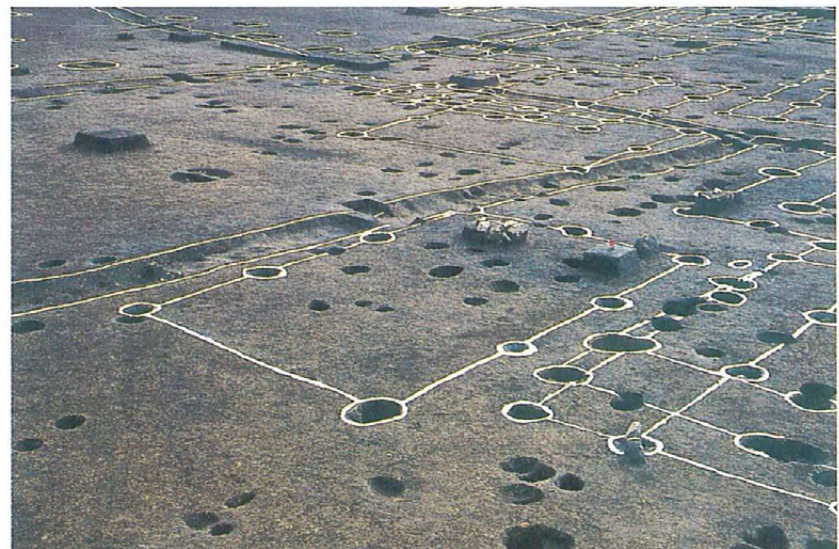
掘立柱建物跡 (SB22) と溝状遺構 (SD4)



掘立柱建物跡 (SB48・49)

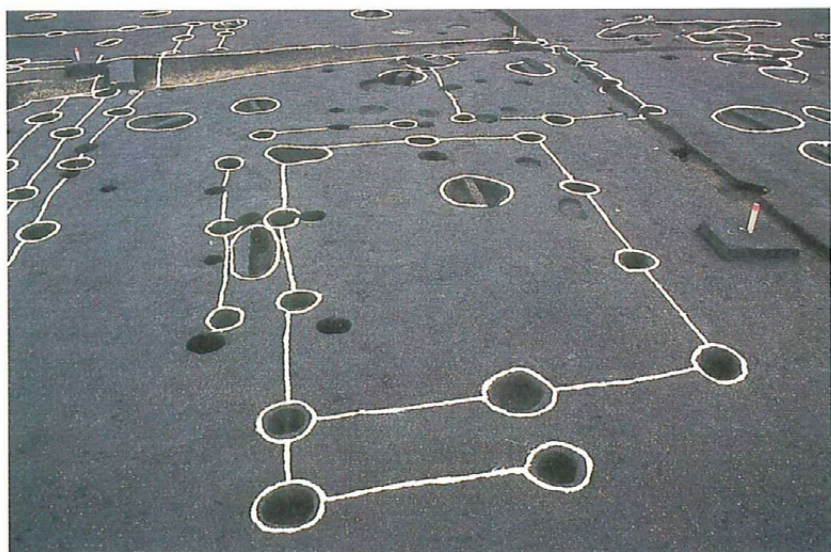


掘立柱建物跡 (SB58)

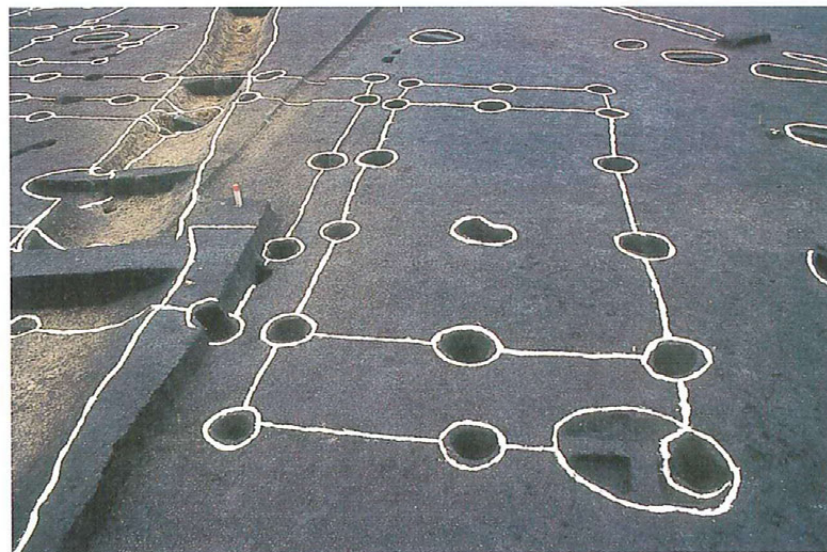


掘立柱建物跡 (SB45)

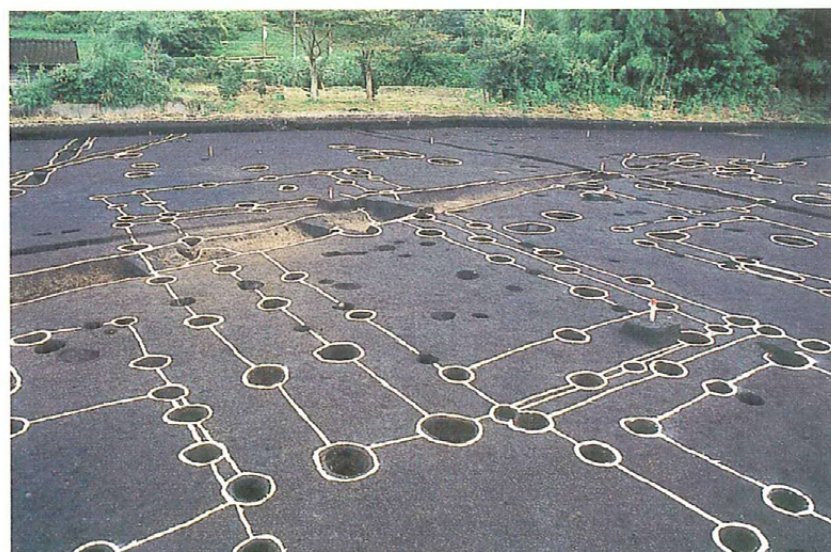
写真14 中世遺構・遺物出土状況



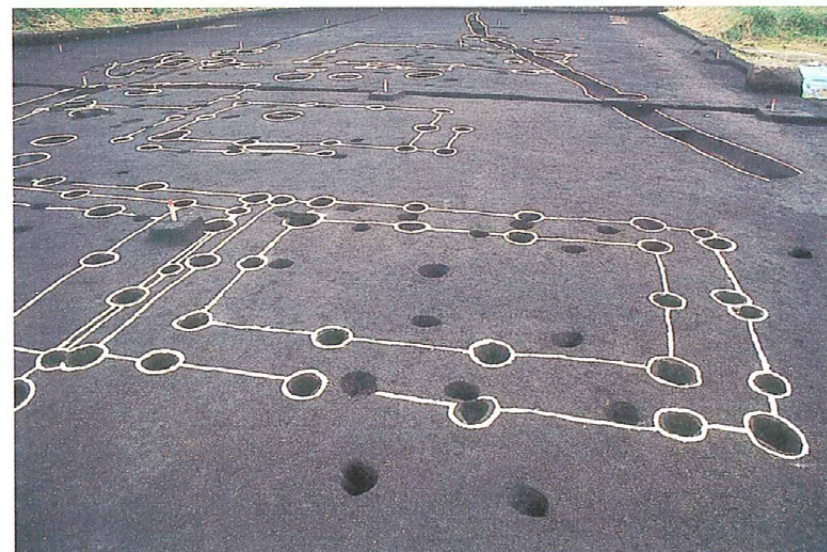
掘立柱建物跡 (SB84)



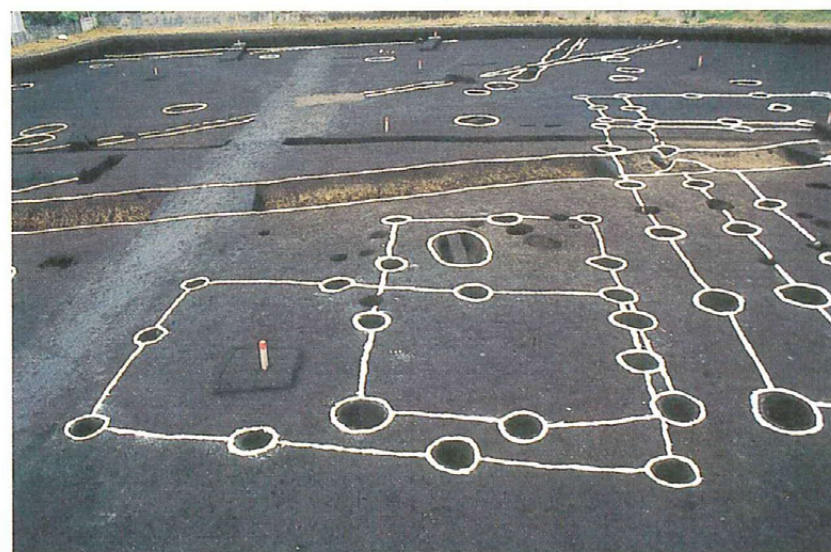
掘立柱建物跡 (SB85)



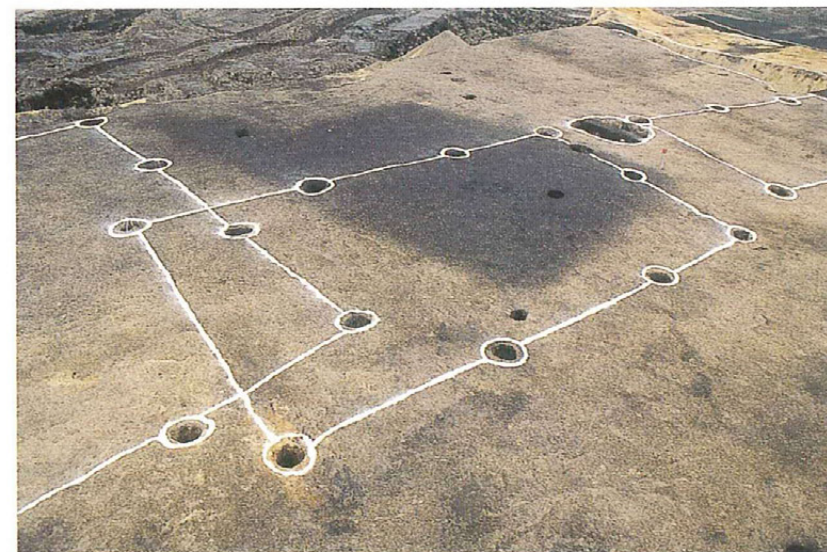
掘立柱建物跡 (SB86・87)



掘立柱建物跡 (SB88)



掘立柱建物跡 (SB89・90)



掘立柱建物跡 (SB93)



掘立柱建物跡 (SB7) 柱穴遺物出土状況



掘立柱建物跡 (SB15) 柱穴上部軽石・粘土出土状況

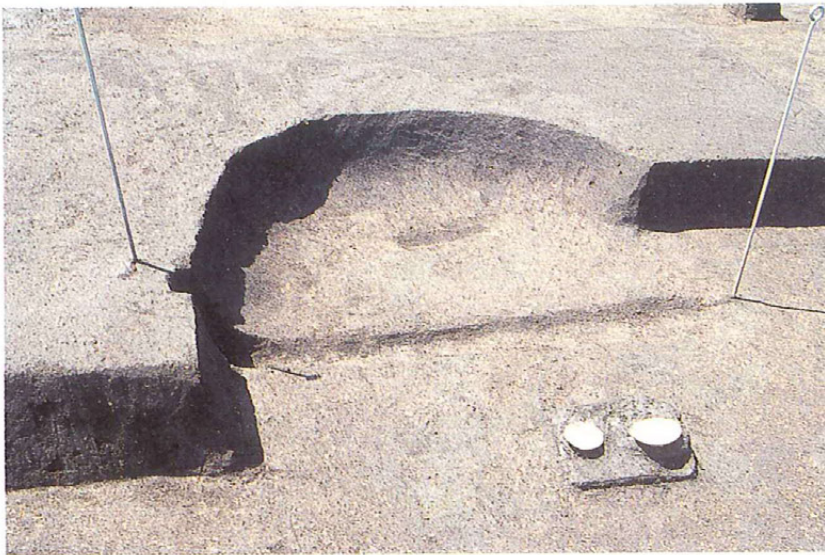
写真15 中世遺構・遺物出土状況



掘立柱建物跡 (SB64) 柱穴遺物出土状況



掘立柱建物跡 (SB77) 柱穴遺物出土状況



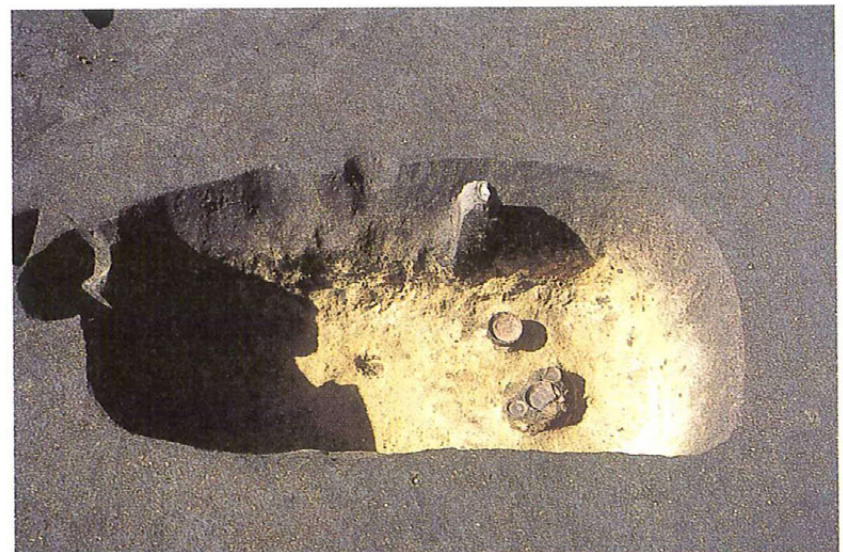
土坑 (SC1) 完掘状況



P・Q-10・11区 土坑群



土坑 (SC43) 断面



土坑 (SC43) 完掘状況



土坑 (SC43) 土師器出土状況



土坑 (SC48) 内軽石検出状況

写真16 中世遺構・遺物出土状況



土坑 (SC100) 完掘状況



土坑 (SC138) 遺物出土状況



土坑 (SC138) 完掘状況



土坑 (SC159) 完掘状況 SD 4との切り合い



土坑 (SC159) 土師器出土状況



土坑 (SC140) 上部土師器出土状況



土坑 (SC192) 断面



土坑 (SC243・242)

写真17 中世遺構・遺物出土状況



土坑 (SC246) 銅製華瓶出土状況



土坑 (SC246) 断面



土坑 (SC253) 断面



石組土坑 (SC60) 断面



石組土坑 (SC60) 内礫表面



石組土坑 (SC160) 完掘状況



石組土坑 (SC125) 断面



石組土坑 (SC130) 検出状況

写真18 中世遺構・遺物出土状況



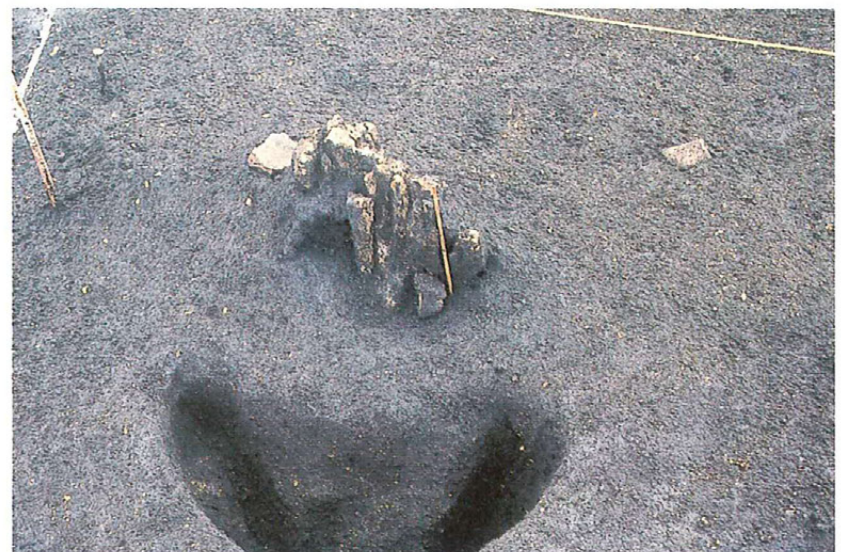
石組土坑 (SC130) 完掘状況



石組土坑 (SC130) 礫表面



溝状遺構 (SD10) 完掘状況



軽石石積遺構 (SI 2)



軽石石積遺構 (SI 3)



焼土遺構 (SJ 1)



焼土遺構 (SJ 2)



中世土師器集積遺構 (SX 1)

写真19 平安時代の遺物(1)



20



21



26



309



345



384



394



399



写真20 平安時代の遺物(2)



410



411



421



422



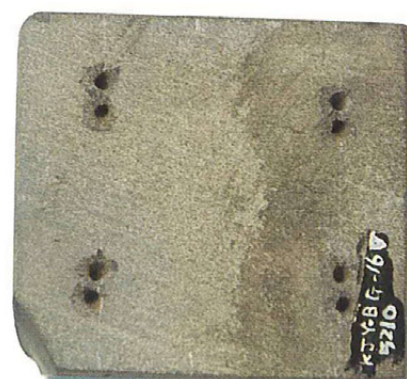
440



440(底面)



463(表)



463(裏)

写真21 中世の遺物(1)



写真22 中世の遺物(2)



1222



1302



1314



1315



1318



1323



1328



1339

写真23 中世の遺物(3)



1343



1350



1375



1387



1459



1459(底面)



1483



1519

写真24 中世の遺物(4)



1523



1524



1525

1526

1527

1528

1529



1530



1579



1580



1582



1609

写真25 中世の遺物(5)



1611



1615



1629



1630



1634



1635



1636



1644

写真26 中世の遺物(6)



1661



1662



1669



1670

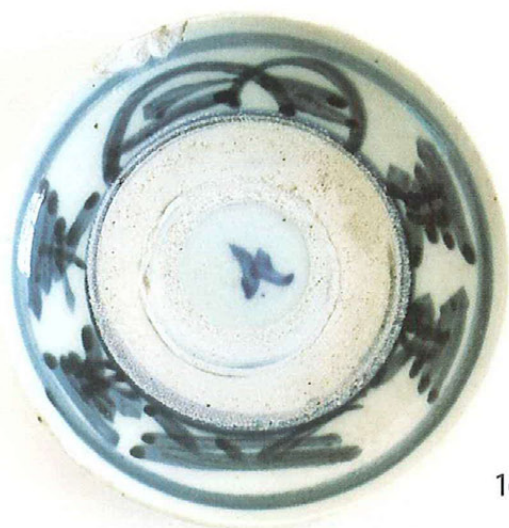


1672



1673

写真27 近世の遺物



1690



1697

# 第1章 加治屋B遺跡における樹種同定

株式会社 古環境研究所

## 1. はじめに

木材は、セルロースを骨格とする木部細胞の集合体であり、解剖学的形質の特徴から属レベル程度の同定が可能である。また、木材は花粉などの微化石と比較して移動性が少ないことから、比較的近隣の森林植生の推定が可能であり、遺跡から出土したものについては木材の利用状況や流通を探る手がかりとなる。

## 2. 試料

試料は、年代測定に用いられた試料1～試料5と同一の炭化材5点である。試料の詳細を表1に示す。

## 3. 方法

試料を割折して新鮮な基本的三断面（木材の横断面、放射断面、接線断面）を作製し、落射顕微鏡によって75～750倍で観察した。同定は解剖学的形質および現生標本との対比によって行った。

## 4. 結果

結果を表1に示し、主要な分類群の顕微鏡写真を示す。以下に同定根拠となった特徴を記す。

ツブラジイ *Castanopsis cuspidata* Schottky ブナ科 図版1

横断面：年輪のはじめに中型から大型の道管が、やや疎に数列配列する環孔材である。晩材部で小道管が火炎状に配列する。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、放射組織は平伏細胞からなり、同性放射組織型である。

接線断面：放射組織は同性放射組織型で、単列のものと集合放射組織が存在する。

以上の形質よりツブラジイに同定される。ツブラジイは関東以南の本州、四国、九州に分布する。常緑の高木で、高さ20m、径1.5mに達する。材は耐朽性、保存性低く、建築材などに用いられる。

サクラ属 *Prunus* バラ科 図版2

横断面：小型で丸い道管が、単独あるいは2～3個放射方向および斜め方向に複合して散在する散孔材である。道管の径は、早材部から晩材部にかけてゆるやかに減少する。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。放射組織は、同性に近い異性である。

接線断面：放射組織は、異性放射組織型で1～3細胞幅である。道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。

以上の形質よりサクラ属に同定される。サクラ属には、ヤマザクラ、ウワミズザクラ、シウリザクラ、ウメ、モモなどがあり、北海道、本州、四国、九州に分布する。落葉の高木または低木である。

ムクロジ *Sapindus mukorossi* Gaertn. ムクロジ科 図版3

横断面：大型の道管が、単独ときに2個複合して、年輪のはじめに1～2列配列する環孔材である。晩材



部では小型で薄壁の角張った道管が数個おもに放射方向に複合して散在する。軸方向柔細胞は早材部で周囲状、晩材部では数列幅で帯状となって接線方向に配列する。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、放射組織は同性である。小道管の内壁にらせん肥厚が存在する。

接線断面：放射組織は、同性放射組織型で1～3細胞幅である。

以上の形質よりムクロジに同定される。ムクロジは本州（茨城県、新潟県以南）、四国、九州、沖縄に分布する。落葉の高木で、高さ25m、径1mに達する。材はやや軽軟で脆弱な材で、器具、家具などに用いられる。

ヤブツバキ *Camellia japonica* Linn. ツバキ科

図版 4

横断面：小型でやや角張った道管が、単独ないし2～3個複合して散在する散孔材である。道管の径はゆるやかに減少する。

放射断面：道管の穿孔は階段穿孔板からなる多孔穿孔で、階段の数は10～30本ぐらいである。放射組織は平伏細胞と直立細胞からなる異性で、直立細胞には大きく膨れているものが存在する。道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。

接線断面：放射組織は、異性放射組織型で、1～3細胞幅である。直立細胞には大きく膨れているものが存在する。

以上の形質よりヤブツバキに同定される。ヤブツバキは本州、四国、九州に分布する。常緑の高木で、通常高さ5～10m、径20～30cmである。材は強靱で、耐朽性強く、建築、器具、楽器、船、彫刻などに用いられる。

タケ亜科 *Bambusoideae* イネ科

図版 5

横断面：基本組織である柔細胞の中に並立維管束が不規則に分布する。並立維管束は木部と師部からなり、その周囲に維管束鞘が存在する。

放射断面及び接線断面：柔細胞及び維管束、維管束鞘が桿軸方向に配列している。

以上の形質よりタケ亜科に同定される。

## 5. 所見

分析の結果、ツブラジイ1点、サクラ属1点、ムクロジ1点、ヤブツバキ1点、タケ亜科1点が同定された。いずれも照葉樹林の構成要素ないし照葉樹林域に分布する植物である。

### 【文献】

佐伯 浩・原田 浩（1985）針葉樹材の細胞. 木材の構造, 文永堂出版, p.20-48.

佐伯 浩・原田 浩（1985）広葉樹材の細胞. 木材の構造, 文永堂出版, p.49-100.